

## 「本山寺山森林づくりの会」活動報告

武田 壽夫

2017年2月19日(日) 9:30~15:30

気象：天候=晴れ・微風、朝の気温=2℃程度

作業エリア：45 林班ろ-04(=谷間)、45 林班に-01(=作業小屋周辺)

作業内容：1)林床整備(伐倒放置木の整理、2)枯損木伐倒・除伐、枝打ち)

活動参加者：斧田一陽 小櫃徹夫 金井良碩 加納基嗣(体験・午後) 倉谷邦雄 黒山泰弘 薦田佳一(午後) 武田壽夫 中村賢三 丸山喜代司 茂木完治(午後) 若林朋世(体験・午後)  
計12名

### <久しぶりの……>

能勢、亀岡に落ちる雪は、山を越えて本山寺山周辺まで白くする。傾斜地の現場作業では足場の心配、それに作業小屋への車で移動は道路の凍結も心配である。その為、ここ暫く現地行きを見あわせざるを得ない日が続いていた。今日は久しぶりの晴天で寒気は残るが絶好の作業日和。とは言え、小屋周辺や標高400m 辺りから上は、斑に雪が残っていて、作業場所への往復や谷での作業は足下が心配である。

### <今日の作業>

作業地中「45 林班ろ-04」は標高 300~350m の急斜面のヒノキの植林地、「45 林班に-01」は小屋の周辺。「ろ-04」では、数年前間伐された木が倒し放しのまま放置されているものを玉切りし、土留め状に等高線に沿って積み直すという林床の整備。下部は済んでいるが、上部が残っている。森の保全に必要な作業である。朝から参加の8名が担当、内1名は枝打ち。

「に-01」ではクロスして絡まり、3本がもたれ合っていた枯損木の処理と日照を良くする為の常緑樹(ヒサカキなど)の除伐。こちらは午後から参加の4名に連絡を兼ねて谷から移動した1名が合流して取り組み。

### <いつもの「悪戦苦闘」>

「ろ-04」の谷は尾根に近づくにつれ傾斜は30度前後と急峻になる。しかも足下は崩れ易い上、この処の降雪→融雪の繰り返しで一層足場の確保に苦勞する。安全に注意しながらの作業となる。勿論、処理木は谷に向かって滑り落ちるので、上下の同時作業は厳禁である。また、径30cm、長さ10mの木もあるのでこれらは手鋸ではおっつかない。チェーン・ソーが威力を発揮する。

もっとも、適当な長さに玉切り出来ても、これらが後日谷に落ちていかぬよう、出来るだけ等高線に沿って(美しく)積み直して置かなければ「整備」にはならない。抱え上げ、移動させるのも結構腰に堪える。さらに癪なのは、谷を上に進む程、未整理の地面が現れることである。まだまだ作業の必要がありそうだが、それでも午前・午後で長さ100m×幅20m(=0.2ha)のエリアを整備出来た。

作業小屋周辺の「に-01」地区では、クロスした枯損木の処理に今回も手こずった。根元を上をズリ上げて上部を落とそうとするのだが、チェーンブロックを使っても中々思うようにズリ落ちてくれない。半日ばかりで漸く1本を処理出来た。元々、3本が上部クロスして絡まっていたもので、これで残す処1本となった。午後一杯で、枯損木1本、常緑樹5~6本を除伐し、林床を整備した。

### <一日を振り返って>

倒されて数年、腐蝕が進んでいるとは言え流石は「ヒノキ」、鋸が芯に近づくと良い香りがする。また、谷からの帰りはキツ目の登りで、疲れた身体にはいつも堪える。小屋で顔を揃えるとみんなホッとした顔つきである。無事で元気な声を掛け合うのも何よりの「癒し系」。

最後に、確認忘れが一件。昨年、谷で発見した生物の卵囊(ツノリ)がどうなったか、これは次回以降の「宿題」。

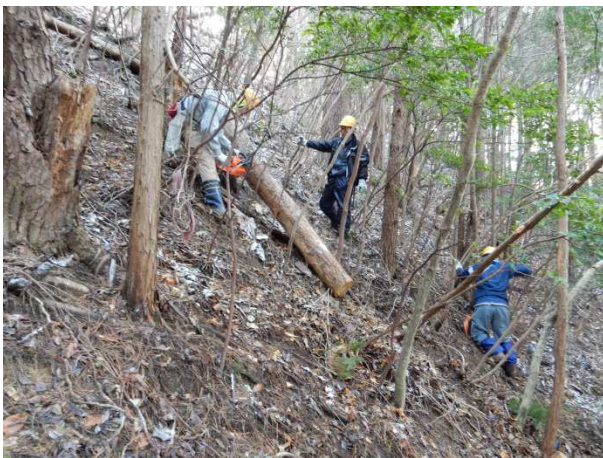
(本文-以上)



小屋付近の残雪



参加者 12 名(作業終了時)



チェーンソーを使って玉切り



適当な場所へと斜面を引きずり降ろす



等高線沿いに積み置いた状態



高枝切り鋸による枝打ち作業(長さ 4m、結構重い)



整備前の谷の様子(作業地の一部)



整備後の谷—残置木を切り揃え等高線沿いに積む



もたれ合っていた3本の枯損木はあと1本を残す  
のみ 作業小屋付近